

平成 29 年度学内教育 GP プログラム事業経費 成果報告書

区 分	継続型
事業名称	乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築 (ECCELL) (人間発達教育科学研究所 保育・教育実践部門)
取組代表者名 担当者名	基幹研究院 人間科学系 教授 浜口順子 基幹研究院 人間科学系 教授 小玉亮子 基幹研究院 人間科学系 教授 柴坂寿子 基幹研究院 人間科学系 准教授 刑部育子

1. 成果の概要

実施した事業の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、当初設定した目的・目標に照らし、3ページ以内で、できるだけ分かりやすく記述すること。必要に応じ、図表を用いても構いません。

平成 29 年度特別経費事業 ECCELL は、お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所教育保育実践研究部門のもと、「社会人対象の乳幼児教育・保育に関する授業（生活科学部特別設置科目）の開催」に関する取り組みを行った。

①継続的に取り組んでいる目標は、学部生と社会人が共に学び合うユニークなアクティブラーニングの場として成果をあげることであり、②新規の目標は、大学院レベルの社会人プログラムおよび幼稚園教職課程の教員免許状更新講習の企画、準備を行うことである。

①について、平成 29 年度開講科目は、下記の 5 科目であった。

【前学期集中講義】

ECCELL 子ども学ゼミⅢ(1 単位)

受講生 12 名、その他こども園の保育士数名が随時参加した。大学専任教員 4 名が共同で 4 回の授業を担当した。保育体験と発表のバリエーションを増やす意図から、外部講師の授業回を設けた。講義時間は 13:20-16:30 である。

- 4 月 8 日 (土) 授業オリエンテーション、各自の問題意識や探究テーマを紹介しあい交流した。
- 6 月 3 日 (土) 特別講師を招き、お茶大こども園にて、サイコドラマの技法を用いて保育的問題を体験的に相互に学んだ。
- 7 月 1 日 (土) 写真投影法を使ってワールドカフェ方式で、相互の子ども観・保育観や研究テーマに関する話し合いを行った。
- 8 月 5 日 (土) 口頭発表、ポスター、映像など、各自もっとも適した表現方法による研究成果 (到達点) の報告会を行った。

ECCELL 乳幼児教育論Ⅲ (1 単位)

受講生 17 名であった。非常勤講師 2 名が 1 回ずつ以下のテーマで担当した。

- 6 月 24 日 (土) 9:00-16:30 乳児保育のありかたを考える 新制度下の乳児 (3 歳未満児) 保育を考える～保育所保育指針の改定を踏まえて～
- 6 月 25 日 (日) 9:00-15:45 乳児期から幼児期までの発達を見通した保育 (序論、感覚・知覚発達、運動・認知発達と遊び・学び、情動・言語発達とコミュニケーション・関係構築、乳児保育における「生活」)

ECCELL 子ども学研究法Ⅰ (1 単位)

受講生 5 名であった。ほかにこども園の保育士 1 名が参加した。

この講義では、アンケート調査やデータの取扱い、研究法の種類、統計の基本的な考えを提示し、質問紙法を用いた簡単な調査と分析について実習を行った。

- 8 月 19 日 (土曜) 9:30-17:00 オリエンテーション・さまざまな研究法、実証研究のプロセス・変数とデータ、質問紙作成

- 8月26日(土曜)9:30-16:15グループによる質問紙作成と回答回収、質問紙のデータ化と分析、表とグラフの作り方、まとめ

【後学期集中講義】

ECCELL 子ども学ゼミⅣ(1単位)

受講生12名であった。雑誌『幼児の教育』の講読を行った。同誌は、1901年に『婦人と子ども』という誌名で現職保育者と研究者による研究会の機関誌として創刊されて以来、現在まで刊行される雑誌で、現職者や学識者、保護者や他領域の専門家にいたる多様な執筆者による、各時代の幼児教育・保育に関する論考が掲載されている。受講者の関心や研究テーマを反映させて、バックナンバーから記事を選択し、共同して読み討議することを通して、子どもや教育への理解を深めた。

- 開講日程は10月21日(土)11月23日(木)12月9日(土)1月6日(土)の4回、開講時間は9:30-12:30であった。

ECCELL 乳幼児教育論Ⅳ(1単位)

受講生17名であった。1回目では0-2歳児の世界の探求と理解、2回目は3-5歳児の世界の探求と理解について、講義とワークショップを交えて学んでもらう。

- 11月4日(土)9:00-16:30 子どもの世界の探求と理解(1)(0-2歳児の子どもたちの姿と保育の実際から)  
子どもが育つということの意味を探る、0-2歳児の姿(画像)から「体験の意味」について検討する、ワークショップ「感じる世界を感じる」:カラダ・素材・自然  
0-2歳児の育ちと援助の在り方を学ぶ
- 12月2日(土)9:00-15:45 子どもの世界の探求(2)(3-5歳児の子どもたちの姿と保育の実際から)  
子どもが育ち合うということの意味を探る、3-5歳児の姿(画像)から「体験の意味」について検討する、ワークショップ「遊ぶ世界を遊ぶ」:遊具・人間関係・イメージ、3-5歳児の育ちと援助の在り方を学ぶ

②の新規の目標について、文京区内の公立幼稚園・保育所の保育者(管理職を含む)を対象に保育研修会に関するアンケート調査を実施した。

【名称】「保育者研修の場づくり」に向けたアンケート

【実施期間】平成29年10月~11月末

【アンケート配布総数】280枚(区立保育園18園×10枚、区立幼稚園10園×10枚)

【アンケート回収総数】216名(回収率77%:区立保育園17園、区立幼稚園10園)

- 参加しやすい月(複数回答):6月(66%)と11月(62%)
- 参加しやすい曜日(複数回答):水曜日・木曜日
- 参加しやすい時間帯(複数回答):平日午後(52%)、平日夕方~夜(66%)
- 研修の日程や開催形式(自由記述):半日(午後)研修、シフトの体制にもよる、同じ内容を複数回実施
- 参加しやすい開催場所(複数回答):お茶大(50%)、園(71%)  
その他(20%)文京区役所/シビックセンター、区内の地域活動センター、集まりやすい他園
- 研修の種類希望(複数回答):階層別(70%)、職種別(74%)、その他(7%)保育士全体対象、担当年齢別、気になる保護者/気になる子のアドバイス、保護者対応/危機管理、保護者向け

- 研修内容の希望（複数回答 N = 215）  
 保育実践（89%）、園運営（17%）、カリキュラム（29%）、家庭支援/保護者支援（55%）、保育教育関連の一般的問題（48%）、その他（7%）特別支援、教材研究、環境設定
- 研修料金について（上限）
 

	平均値	標準偏差
管理職（31名）	2,500a	1,862
常勤教諭（41名）	1,756b	1,050
常勤保育士（128名）	1,778b	1,126

 ＊aとbの間に有意差有り
- 「場作づくり」としての研修会への期待（自由記述）  
 多かった意見
  - ・ 交流・意見交換の場、公立私立混合
  - ・ 実践的（若い教員の教材づくり）
  - ・ 気軽に楽しく参加できる、リラックスできる
  - ・ 開催方法についてのアドバイス（区で進められている研修と日程が重ならないように）

以上の結果を踏まえ、大学院レベルの講習会研修会の準備を行っていく。

## 2. 今後の取組み継続に係る実施体制及び資金確保の状況について

本経費は、学外の競争的資金等によるプロジェクトで、プロジェクト実施期間終了後も引き続き取組みを継続するための体制を整備するために配分されたものです。本経費の支援期間終了後の実施体制及び資金確保の状況について記述してください。

本事業は、3年目の平成30年度についても採択され継続が決定し、前年度と同額の資金が確保されている。ECCELL 担当講師について本年度も平成29年度の4名（全員学内の教員）で担当する。他大学の講師を随時招聘して授業内容を拡充、更新している。講義数は前学期・後学期合計4科目と予定している。また、大学院レベルの講習会研修会の準備については、地方自治体の研修に出講し、保育教育関係者からフィードバックを得ることを計画している。なお、2019年度後期から実施したい、文科省の職業実践力育成プログラム（BP）への応募を踏まえ、学や事務との調整をすすめることを予定している。